

総合型選抜 2024 年度過去問題 建築デザイン学科

2022 年に解体された建築に関する次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

『「中銀カプセルタワービル」解体 新陳代謝する建物 黒川紀章の傑作、老朽化進み』

立方体をしたいくつものカプセル形住戸がそびえる「中銀（なかぎん）カプセルタワービル」（東京都中央区）の解体工事が進んでいる。日本を代表する建築家、黒川紀章（1934～2007 年）の傑作として注目を集めた集合住宅。生物が新陳代謝するように時代や必要性に合わせて建物が変化する思想「メタボリズム」を象徴する建築として国内外でよく知られたビルだ。

解体は 2022 年 4 月 12 日に始まった。1972 年の完成から 50 年がたち、老朽化が進んでいた。黒川は当初、25 年に 1 度、カプセルを交換することで 200 年ビルを維持する考えを持っていた。しかしカプセルは一度も交換されなかった。2014 年に当時の所有者らで設立した「中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクト」の代表、前田達之さんは「カプセルそれぞれにオーナーがいて、管理組合の多数決でしか物事が決められなかったことが大きい」と明かす。2021 年 3 月、解体して敷地を売却することが決まった。

■ ■

ビルは 2 棟からなり、中央の塔に 140 のカプセルが取り付けられている。室内の床面積は風呂場を除くと 10 平方メートルに満たない。そこに作り付けの収納などが備え付けられている。週末のセカンドハウスや事務所として活用されてきた。

前田さんは多い時で 15 カプセルのオーナーになり、区分所有者として保存への働きかけを続けた。一時は建築の文化的価値を評価した欧州のデベロッパーが全戸を買い取り、カプセルを交換する計画も持ち上がったが、新型コロナウイルス禍で白紙になった。

「小学生の時に首都高から見たこの建物はウルトラマンの基地のようで、いつか中に入りたいと思っていた」と振り返る。ビルに近い広告代理店に勤務していた 2009 年、近くの電柱に貼られていた「カプセル 400 万」の捨て看板に目が留まった。すぐに電話をかけ、購入した。

誰かがカレーを作ればグループ LINE の通知が鳴った。各部屋から皿にご飯だけよそった住人が集まり、皆でカレーライスをはお張った。「コミュニティが自然発生する建物。それがこのビルの最大の魅力だった」。今はビルの真横に部屋を借り、解体を見守る。

■ ■

保存活動があったにもかかわらず解体が決まった要因について、カプセル建築を研究する工学院大建築学部の鈴木敏彦教授は「黒川の予言の実現に 50 年かかったことが大きい」と語る。

黒川は 1969 年、『ホモ・モーベンスー都市と人間の未来』（中央公論社）のなかで、社会の情報化が進むと、定まった職場や住居に縛られず、移動しながら仕事をしたり暮らしたりするホモ・モーベンス（動く人）が主役になると予言した。そして、ホモ・モーベンスの住まいこそがカプセル建築だと宣言した。鈴木教授は「コロナ禍でテレワークやワーケーションが進み、ようやく黒川が予言した社会に時代が追いついた。もっと早く、こうした社会が訪れていれば、ホモ・モーベンスの拠点の一つとしてカプセルの価値は高まり、改修・存続の可能性が開けていたかもしれない」と指摘する。

カプセルは 2022 年 6 月下旬から順次、取り外される予定。前田さんらの取り組みにより、一部は修復後、国内外の美術館や博物館に寄贈されることになった。宿泊施設としての再利用も検討されている。取り外すカプセルは二十数個にとどまる見通しだが、引き取りに関する問い合わせは 100 件を超える。

鈴木教授は「これまでの名建築は惜しまれながらも壊され、忘れられていった。このビルは、解体後に建築の肝であるカプセルが世界中へ飛んでいく。黒川のコンセプトが各地で芽生え、根付く可能性がある。こうした形で新陳代謝が実現しようとしているのは楽しみだ」と期待する。

(出典：毎日新聞,2022 年 5 月 19 日,東京夕刊 4 頁 文化面,毎日新聞社。ただし、文章の一部に変更を加えている)

問 1 中銀カプセルタワービルは名建築として世界的にその価値が知られているにもかかわらず、なぜ解体されてしまったのでしょうか。その理由について、本文の内容をふまえて、300 字以内で述べなさい (字数には句読点を含む)。

問 2 文化的な価値がある歴史的な建築を改修・存続する社会的な意義について、あなた自身の自由な意見を 500 字以内で述べなさい (字数には句読点を含む)。